

香川県の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る
疫学調査チームの現地調査概要（令和2年11月5日実施）

令和2年11月5日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 農場の周辺環境

- ① 当該農場は、平野部につながる丘陵地の中腹に位置し、付近は雑木林に囲まれている。また、農場敷地の周囲に複数のため池があり、鶏舎から最も近いものまでの距離は約50メートルであった。また、農場から約750メートル離れたところに、長径約500メートルの池があるが、ここではヒドリガモ296羽、マガモ43羽、ホシハジロ17羽の他、カルガモ、カンムリカイツブリ、オカヨシガモなど、多数の水鳥類が確認された。
- ② 当該農場には2階建ての鶏舎が6棟あり、1階を奇数号鶏舎、2階を偶数号鶏舎（1から12号鶏舎）としていた。発生時には一つの鶏舎を除く鶏舎で採卵鶏が飼養されていた。
- ③ 発生鶏舎は農場入り口からは最も奥に位置していた。当該鶏舎から約70メートル離れた位置にもため池があり、現地調査時には、コガモ3羽が確認された。

2 管理人及び従業員

- ① 当該農場の鶏舎の管理は、専属の従業員（計8名）によって行われており、毎日、鶏舎において鶏の健康観察を行うとともに、死亡鶏を回収して、農場内の死亡鶏処理装置にて処理している。なお、従業員ごとに、担当する鶏舎は分かれていない。
- ② 管理人によると、従業員は農場専用の作業着と長靴を使用し、鶏舎に入る際には、鶏舎ごとに手袋を交換し、踏み込み消毒を実施しているが、長靴は交換していなかった。

3 農場の飼養衛生管理

- ① 鶏舎横には飼料タンクが設置されているが、当該タンク上部には蓋が設置されており、タンク内への野鳥等の侵入やタンク内の飼料への野鳥の糞等の混入の可能性は低いと考えられた。
- ② 飼養鶏への給与水は、水道水がいったん農場内の貯水タンクに貯蔵され、パイプによって各鶏舎に供給されている。
- ③ 鶏舎から排出された鶏糞の一時集積場には防鳥ネットは設置されておらず、農場内の堆肥置き場には防鳥ネットが設置されていたものの、隙間や破損が認められた。
- ④ 管理人によると、鶏舎ごとにオールイン・オールアウトを行っており、オールアウトのたびに鶏糞の除去と鶏舎内の清掃・消毒を行っているとのこと。
- ⑤ 管理人によると、農場敷地内の消石灰散布による消毒は例年11月半ばに実施しているが、通報時には消石灰散布は実施していなかった。
- ⑥ 管理人によると、車両が当該農場に出入りする際、車両消毒ゲートによる消毒を行っているとのことだが、車両消毒ゲートは農場外に設置されており、消毒後、農場に入場する前に一般道を通過せざるをえない状況であった。
- ⑦ 鶏舎構造は片側の壁面に設置された換気扇から排気し、反対側の壁面に設置されたフィルターから入気するタイプの鶏舎であった。換気扇の外側には開閉可能な板が設置されており、換気扇が停止する際にはこの板が閉まる。

4 野鳥・野生動物対策

- ① 発生鶏舎では、鶏舎から集卵ベルトが外へ出る開口部を覆う金網に隙間があり、小型の野生動物が侵入可能と考えられた。
- ② 管理人によると、鶏舎内においてネズミを見かけることもあるが、定期的にネズミ

対策（殺鼠剤の設置）を行っているとのこと。現地調査時には、発生鶏舎内にネズミのものと思われる小動物の糞が、隣接する鶏舎内にはネズミの死体が確認された。

- ③ 管理人によると、鶏舎内において野鳥を見かけることはなく、現地調査時にも野鳥が侵入した痕跡は認められなかった。